

# ミクロ経済学II

## 第四回

担当

上條 良夫



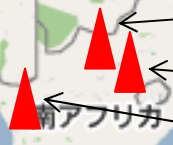
南大西洋

© Google Map

キンバレー

ヤーガースフォンテイン  
Jagersfontein

ウェッセルトン  
Wesselton



# 講義目的

- 独占企業の利潤最大化行動を定式化し、独占価格、独占生産量を求められるようになること。
- 二次関数の最大値、最小値を求めることができるようになること。

# 市場構造のタイプ

製品が差別化されているか

されてない

されてる

1つ

独占

該当なし

少数

寡占

多数

完全競争

独占的競争

どれだけの  
生産者が  
いるか

# なぜ独占が存在するのか

- 少数の資源や生産要素の支配
- 規模の経済性
- 技術的な優位性
- ネットワーク外部性
- 政府が作り出した参入障壁の存在

- 少数の資源や生産要素の支配
- 規模の経済性
- 技術的な優位性
- ネットワーク外部性
- 政府が作り出した参入障壁の存在

日本の郵便事業は日本郵政グループにより独占されている。

19世紀後半、ダイヤモンド生産はデビアスにより独占されていた。

製薬会社は抗HIV薬の製造・販売を独占的に行うことができる。

90年代、ほとんどのコンピュータのCPUはインテル製だった

# 独占企業は何をするのか

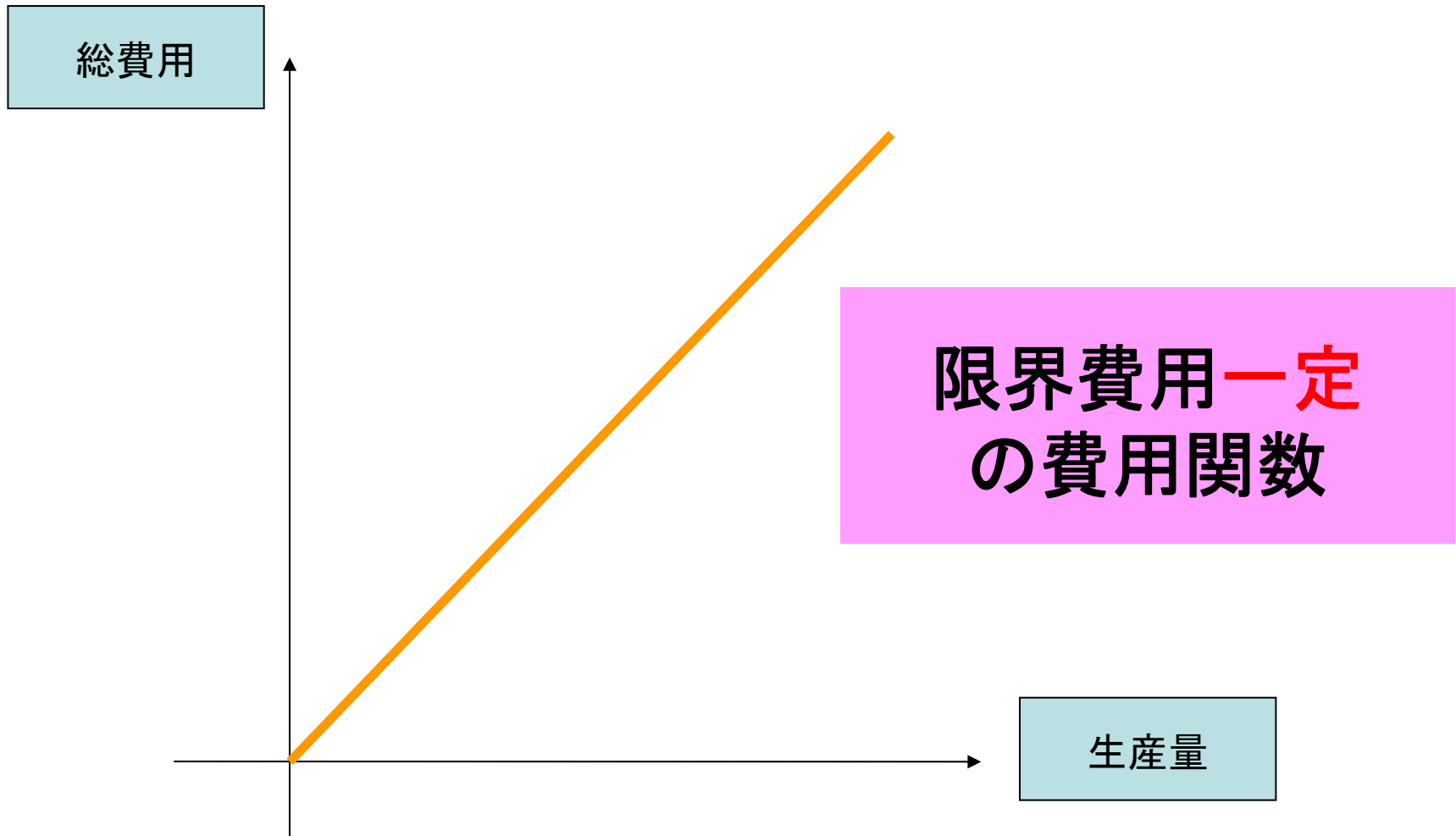
- 独占企業は、完全競争における企業とは異なり、価格支配力(市場支配力)を有する。
- 価格を調整することにより、自己の**利潤を最大化**するように行動する。

# 例題1

- ダイヤモンド生産を独占している企業を考える。
- この企業はダイヤモンド一単位あたり2の費用で生産することが可能である。
- ダイヤモンドの市場需要曲線は
  - $p = 10 - q$
  - $p$  はダイヤモンド価格
  - $q$  はダイヤモンド需要量



- この企業はダイヤモンド一単位あたり 2 の費用で生産することが可能である。



- 企業の費用関数は

$$C(q) = 2q$$

- 企業の利潤(関数)は、

$$\pi = (10 - q) q - 2q$$

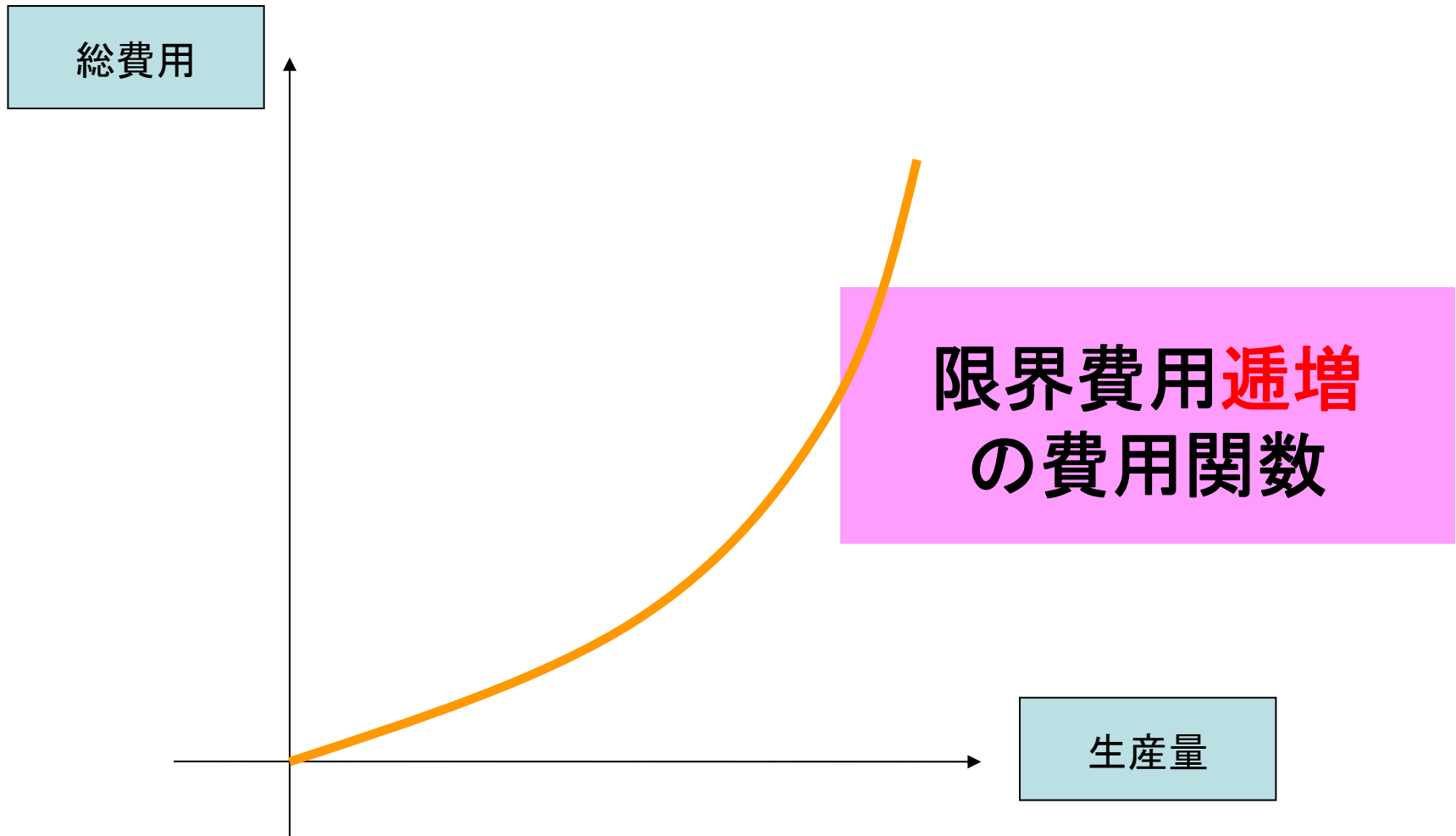
収入(売り上げ)  
価格 × 生産量

生産費用

# 例題2

- ある新薬の製造・販売を独占している企業を考える。
- この企業は  $q$  単位の新薬を製造するのに  $q^2$  の費用がかかる。
- 新薬の市場需要曲線は
  - $p = 10 - q$
  - $p$  は新薬の価格
  - $q$  は新薬の需要量

- この企業は  $q$  単位の新薬を製造するのに  $q^2$  の費用がかかる。



- 企業の費用関数は

$$C(q) = q^2$$

- 企業の利潤(関数)は、

$$\pi = (10 - q) q - q^2$$

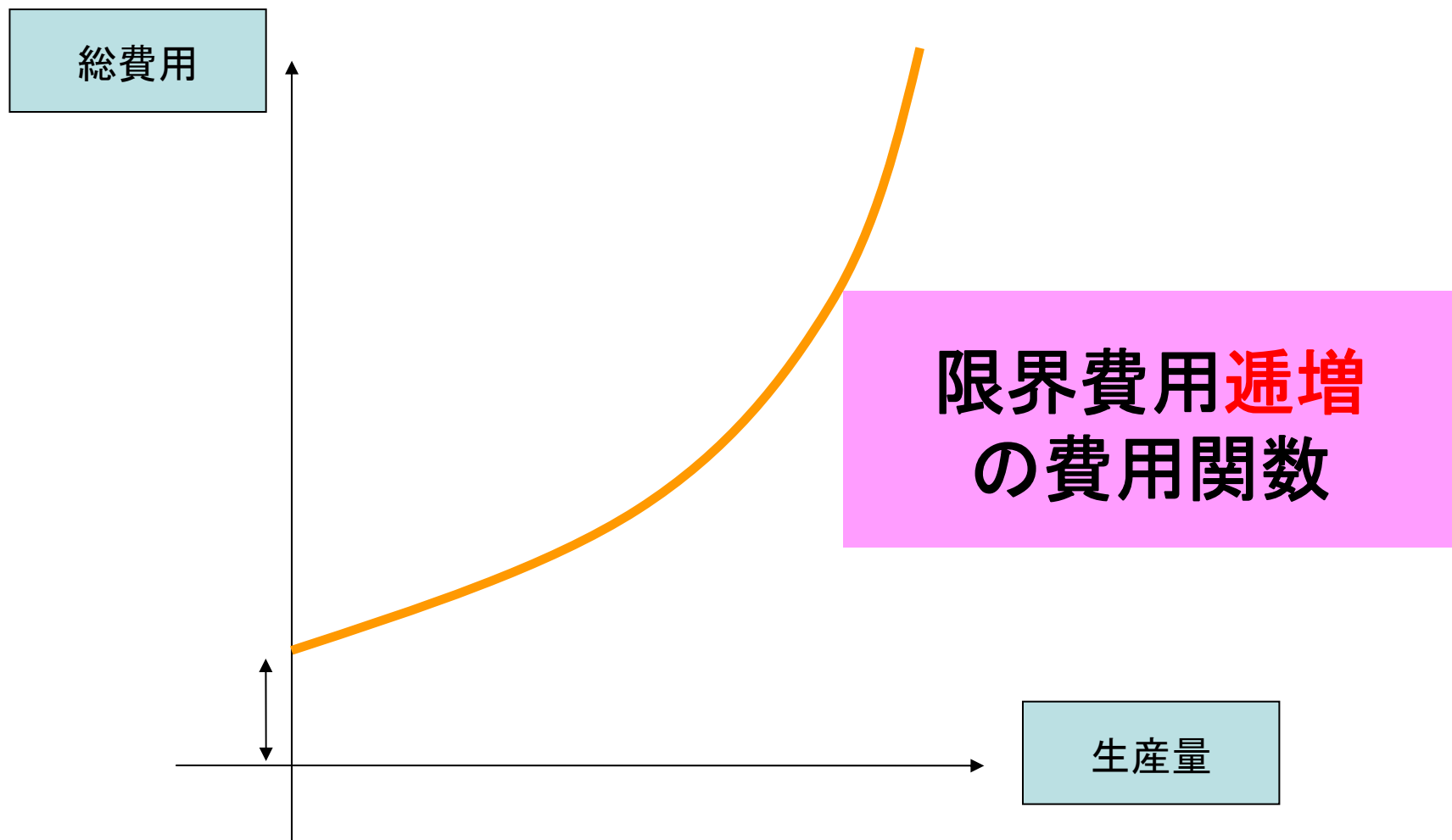
収入(売り上げ)  
価格 × 生産量

生産費用

# 例題3

- ある新薬の製造・販売を独占している企業を考える。
- この企業は  $q$  単位の新薬を製造するのに  $q^2 + 2$  の費用がかかる。
- 新薬の市場需要曲線は
  - $p = 10 - q$
  - $p$  は新薬の価格
  - $q$  は新薬の需要量

- この企業は  $q$  単位の新薬を製造するのに  $q^2 + 2$  の費用がかかる。



- 企業の費用関数は

$$C(q) = q^2 + 2$$

可変費用

固定費用

- 企業の利潤(関数)は、

$$\pi = (10 - q) q - q^2$$

収入(売り上げ)  
価格 × 生産量

生産費用